

報道記録

(2017年度～2018年度分：2017.7.15～2019.1.31)

2019.1.31	日刊新周南	”べんけい号”へ年賀状 愛する会が表彰式
2018.12.24	朝日新聞	掲示板(下松べんけい号年賀状コンクール)
2018.10.18	日刊新周南	初の鉄道フェスタ・運転士体験も
2018.10.11	日刊新周南	14日・徳山駅で鉄道フェス
2018.2.2	日刊新周南	下松べんけい号年賀状コンテスト
2018.2.1	朝日新聞	「弁慶号」あて年賀状ずらり
2018.2.	日刊新周南	(タウンニュース)年賀状コンクール応募作品展示
2017.10.24	日刊新周南	べんけい号が走るのを夢見て ～おじさんたちのロマンは止まらない～
2017.10.4	日刊新周南	「鉄道の街を知ろう」藻谷さん「ネットで情報発信を」べんけい号 を愛する会が講演会
2017.10.1	読売新聞	鉄道産業のまち発信へ
2017.9.29	日刊新周南	鉄道のまち下松を発信
2017.9月号	スターピア下松 会員情報誌	藻谷浩介氏講演会
2017.7.19	日刊新周南	生涯学習見本市も
2017.7.15	朝日新聞	掲示板(ミニべんけい号走行と親子スケッチ会)



下松市役所前に展示されている小型の蒸気機関車、べんけい号へ表彰式が27日、下松市で開かれ、下松市長賞の花岡小5年、花岡あかりさんと小学生と保育園児23人が表彰された。

NPPO法人下松べんけい号を愛する会大木孝行理事長の主催。今回は昨年より2割近くも多い1030点が寄せられ、市長賞など最優秀賞5点、優秀賞16点、特別賞2点が選ばれ、この日一人一人に表彰状が渡された。

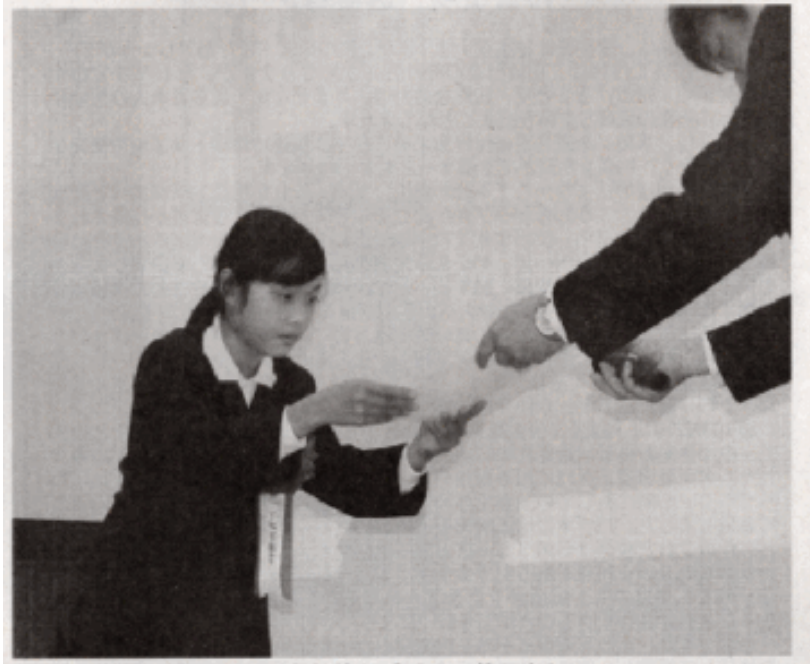
年賀状は走っている蒸気機関車を描いて「今年も頑張つてね」「長い間お疲れ様です」などと書かれていた。市役所前の蒸気機

下松市役所前に展示されている小型の蒸気機関車、べんけい号への表彰式が27日、下松市で開かれ、下松市長賞の花岡小5年、花岡あかりさんと小学生と保育園児23人が表彰された。

NPPO法人下松べんけい号を愛する会大木孝行理事長の主催。今回は昨年より2割近くも多い1030点が寄せられ、市長賞など最優秀賞5点、優秀賞16点、特別賞2点が選ばれ、この日一人一人に表彰状が渡された。

年賀状は走っている蒸気機関車を描いて「今年も頑張つてね」「長い間お疲れ様です」などと書かれていた。市役所前の蒸気機

“べんけい号”へ年賀状 愛する会が表彰式



表彰状を受け取る花岡さん

(同3)木村末広(同小本大駿(同4)岡田陽小4)▽特別賞▽福6)中知姫乃(花岡小新倉村上結菜(同5)田野佑(公集小4)平1)内山蘭(下松小3)阿部慈美、渡辺陽向野志道(下松小4)井上智預、梅本悠人(同6)坪野優希奈(東

掲示板

下松べんけい号年賀状コンク
 ール 下松市役所のシンボルで
 もある小型蒸気機関車「下松
 べんけい号」への年賀状を募
 集。はがきサイズの用紙で、1
 月11日までに郵送（〒744・
 0031、下松市生野屋4丁目
 12の30、「べんけい号年賀状
 係」）か下松市大手町2丁目の
 ほしらんどくだまつにある応募
 袋へ。入賞作品は1月27日に
 ほしらんどくだまつで表彰す
 る。問い合わせは下松べんけい
 号を愛する会事務局（080・
 1946・5118）へ。



新幹線の模型と下松市長、国井市長と技術者たち

●JR徳山駅●

0系新幹線の 模型寄贈

鉄道の日14日、周南市のJR徳山駅（杉村誠毅長で鉄道フェスタイベント）とくまが間かつもらおうちJR西日本徳山地域鉄道部が初めて開いた。南北自由通路が開かれた開会式では杉村駅長、国井下松市長、下松市の日立製作所営業事業所の若崎充雄海外車両システム設計部長などのあいさつに続いて山下社長が「弊社の創業55周年記念も兼ね、若手技術者が心一つに打ち込んで制作した。末長く観望してほしいとあいさつした。

制作したのは現場リーダーの竹尾真さん（44）と上村大祐さん（24）、河村朋哉さん（24）、藤田若樹さん（24）、石丸龍也さん（23）、石本充さん（27）、塩見健生さん（28）の7人で、先頭の車輪カパーには「Spirit of Kudamatsu」の文字が刻まれている。竹尾さんは先頭の流線形に最も苦労した。下松の地で誕生する技術をたくさんの人に知ってもらいたいと話していた。

会場では日立製の鉄道車両の模型や資料の展示。下松べんけい号を愛する会のミニべんけい号乗車、中国JRバスのハローキティラッピングバスの公開、運転士や車掌のシミュレータ体験もあり、親子20組が参加した。

運転士になった下松市西豊井の下松小6年、田中卓輝君は実際に電車を運転しているみたいで楽しかった。大人になったら電車の運転士になりたいというらしい。車掌体験も本物の車掌の指導で車内アナウンスや出発合図などをした。



車掌体験をする子ども



運転士体験をする子ども

た日「フェスタイベントは多くの人に鉄道を身近に感じ、鉄道ファンになつてもらおうとJR西日本徳山地域鉄道部が初めて開いた。

南北自由通路が開かれた開会式では杉村駅長、国井下松市長、下松市の日立製作所営業事業所の若崎充雄海外車両システム設計部長などのあいさつに続いて山下社長が「弊社の創業55周年記念も兼ね、若手技術者が心一つに打ち込んで制作した。末長く観望してほしいとあいさつした。

制作したのは現場リーダーの竹尾真さん（44）と上村大祐さん（24）、河村朋哉さん（24）、藤田若樹さん（24）、石丸龍也さん（23）、石本充さん（27）、塩見健生さん（28）の7人で、先頭の車輪カパーには「Spirit of Kudamatsu」の文字が刻まれている。竹尾さんは先頭の流線形に最も苦労した。下松の地で誕生する技術をたくさんの人に知ってもらいたいと話していた。

会場では日立製の鉄道車両の模型や資料の展示。下松べんけい号を愛する会のミニべんけい号乗車、中国JRバスのハローキティラッピングバスの公開、運転士や車掌のシミュレータ体験もあり、親子20組が参加した。

運転士になった下松市西豊井の下松小6年、田中卓輝君は実際に電車を運転しているみたいで楽しかった。大人になったら電車の運転士になりたいというらしい。車掌体験も本物の車掌の指導で車内アナウンスや出発合図などをした。

●(徳山)周南 打ち出し板金で駅のシンボル 14日・徳山駅で鉄道フェス

「鉄道の日の14日午
前10時から周南市のJ
R徳山駅で「鉄道フェス
ティバルinとくやま」
が開かれ、下松市の日

立製作所笠戸事業所で
製造された車両の模型
の展示や、山下工業所
が打ち出し板金で作っ
た徳山駅のシンボル作
品がお披露目される。

多くの人に鉄道ファ
ンになつてもらおうと
JR西日本徳山地域
鉄道部が主催するもの

で、主な会場は同駅南
北自由通路と、新幹線
口1階の「そうさんの
寄り道」やすむつち
や」。

下松べんけい号を愛

する会による先着20
0人の「ミニべんけい
号」乗車や、中国ジェイ
アールバスが8月から
運行しているハローキ
ティ新幹線ラッピング
バス「めいぷるとりっ
ぷ」の展示もある。

鉄道グッズや駅弁な
どの販売、缶バッジづく
り体験、JRの子ども
用制服を着用して記念
撮影などもできる。

午後3時まで。問い
合わせは同部(083
4・31・5101)へ。



「弁慶号」あて年賀状ずらり

下松 子ども描く

下松市役所のシンボルでもある明治時代の小型蒸気機関車「弁慶号」にあてた子どもたちの年賀状展が、市内の市民交流拠点施設「はしらんどくたまつ」で開催中だ。

弁慶号は1907(明治40)年に東京の石川島造船所で製造され、旧徳山海

使われた。県立下松工業高校が実習教材用に譲り受け、「下工弁慶号」として親しまれ、96年に同窓会の下松工業会が市に寄贈した。

年賀状展は、弁慶号の保存とPRに取り組み「下松べんけい号を愛する会」の呼びかけで6年前に始まり、今年890点が寄せられた。5日まで展示した後、会場を「スターピアくたまつ」大ホール前ロビーに移し、17日まで展示される。

べんけい号が走るのを夢見て
～おじさんたちのロマンは止まらない～

進

べんけい号が走るのを夢見て

～おじさんたちのロマンは止まらない～

□年をとると、社会にまだまだ貢献したい人と、自分の世界だけを築き取り相んでいるお年寄りをみると、勇気が湧いてくる。先日、NPO法人下松べんけい号を愛する会から声がかかり、「鉄道産業の街・くたまつ」を全国発信しようというシンポジウムに参加させてもらった。

□栗田一郎事務局長はじめ、メンバーの熱心さは相当なものだ。同法人が「べんけい号」と呼んでいる蒸気機関車(SL)は明治四十年(一九〇七年)に我が国三番目のSLとして製造され、戦前は徳山海軍燃料廠で使われ、その後、下松工高で保存された。

□一九八一年、同校の創立六十周年で、生徒たちの手で見事に運転再開を果たした。愛する会の夢は再々度復活して運転を再開することだ。メンバーの中心は同校の卒業生と、日立製作所で車両製造に携わってきた人たちだ。

□下松市内で同社で作っている英国向けの鉄道車両の陸送を日中にしたら、全国から数万人が訪れた。つい先日、英国でのこの車両の運行開始のニュースが流れた。我が社のホームページも、運搬前日には通常の十倍近い一万件をはるかに超えるアクセスがあった。下松が全国版になった。「鉄道の街」として世界に発信できた。

□おじさんたちの夢にはロマンがある。下松工OBとしての誇りや、日立製作所で日本一の車両を作ってきたという自信。定年退職したおじさんたちの第二の人生だ。ま

ちおこしの一翼を担うという気概にあふれている。周南地区でも元氣なおじさんたちの活躍は結構ある。AYSA(県アクティブシニア協会)はこれまで培ってきた技術を生かそうと高齢者の人材バンクや、若者の婚活を進めたり、多様な活動で地域に役立っている。

□いつの日か、べんけい号が全国の鉄道でその雄姿を見せ、白い煙を吐いて走る姿を想像しながら活動を続ける愛する会に、一種あこがれさえも抱く。技術的には復元は可能だそうだが、行政も含め、周囲の応援がなくては実現しない。修復には多額の経費もかかる。

□しかし、山口線ではD51の運行も決まり、話題を集めている。岩徳線にべんけい号が走り、県東部の目玉になることも夢ではない。下松卒業生たちの夢が形になるのはいつのことか。鉄道の街・くたまつが全国版になると一緒にだ。おじさんたちのロマンは止まることはない。

(中島 進)

鉄道のまち下松を発信

● 下松 ●

30日・藻谷さんが講演

パネルディスカッションも



藻谷さん

「鉄道産業のまち下松」全国発信における課題は何か？」をテーマにした藻谷浩介さん(53)の講演会とパネルディスカッション(新周南新聞社など後援)が三十日午後二時から

下松市のスターピエラ下松市のだまつ展示ホールで開かれる。市役所前で保存されているミニSL「下工弁慶号」でまちづくりに取り組むNPO法人下松べんけい号を愛する会(大木孝行理事長)の主

催。同会は藻谷さんは徳山高出身で日本総合研究所首席研究員。全国で街おこしの講演をしているほか開通している日本の鉄道の全線に乗るなど鉄道の愛好者でもある。

藻谷さんの講演は、下松市の「鉄道産業のまち下松」の好機ととらえており、今回の講演会&パネルディスカッションはそのキックオフイベント。山口きらめき財団の助成を受けている。

パネルディスカッションはNPO法人ライトアップ周南理事の今治総一郎さん、下松フィルムコミッションアドバイザーの大橋広宣さん、新周南新聞社社長の中島進さん、下松市観光協会副会長の中村隆征さん、元日立製作所笠戸工場設計部長で愛する会の初代会長、六反弘道さんが登壇する。無料で、整理券を配っている。問い合わせは同会事務局長の栗田一郎さん(080・1946・5118)へ。

藻谷浩介氏 講演会 下松にぎわいづくり

ー 講演とパネルディスカッション ー

「鉄道のまち下松の全国発信の課題は何か？」

[講演及びコーディネーター] 藻谷浩介 (株)日本総合研究所主席研究員

日時

9月30日 土 開場 13:30 開演 14:00 **展示ホール**

入場無料 (要整理券)

お問合せ

NPO法人下松べんけい号を愛する会
080-1946-5118 (栗田さん)

整理券は、スターピアくだまつで配布中

「日刊 新周南」2017年7月19日(水曜日)2面
生涯学習見本市も

●下松●

生涯学習見本市も 23日・くだまつ親子の日フェスタ

下松市は一昨年制定した七月の第四日曜日の「くだまつ親子の日」の二十三日午前十時からほしらんどくだまつで親子の日フェスタ2017を開き、生涯学習活動見本市や子ども会育成連絡協議会の星の子フェスタなどがある。

市、市教委の主催。十時からのオープニングセレモニーでは親子のよい歯のコンクール表彰式があり、一子の清瀬町の藤本亜紗子さん、望名ちゃん▽二位の生野屋の永田由紀さん、陽葵(ひまり)ちゃん▽三位の東豊井の藤田淳史さん、真緒ちゃんを表彰し、藤本さんが体験を発表する。

見本市は市内の生涯学習活動団体や体験教室、展示など、アロマ体験、竹細工、こままわし、ストロームボンボづくり、ブックリサイクル、絵本の読み聞かせなどたくさんあり、親子の日オリジナルの親子の日のバザー、飲み物のバザー、スタンプラリーもあり、市役所前広場では下松べんけい号を愛する会がミニSSLの下工弁慶号の前での親子スケッチ大会や復元機の走行をする。

星の子フェスタはピンポン玉の引っ越し、片足立ち競争など各地区子ども会によるゲームでギネスに挑戦する。午後一時四十分の結果を発表して抽選会のおと餅まき。

二時半まで。問い合わせは市教委生涯学習振興課(0833・45・1870)へ。

掲示板

掲示板

ミニベンけい号走行と親子スケッチ会 23日10〜15時、下松市大手町3丁目の市役所南側駐車場。親子で蒸気機関車の絵を描く。画用紙は受付で配布。画板・画材持参。スケッチ応募者はミニベンけい号の無料乗車券進呈。雨天中止。下松ベンけい号を愛する会の栗田さん(080・1946・5118)。